

●札幌市立大学のOSCE

OSCE (オスキー) は、Objective Structured Clinical Examinationの頭文字をとったもので、「客観的臨床能力試験」と訳されています。大学開設当初からOSCEの導入を検討していましたが、当時は看護領域でOSCEを実践

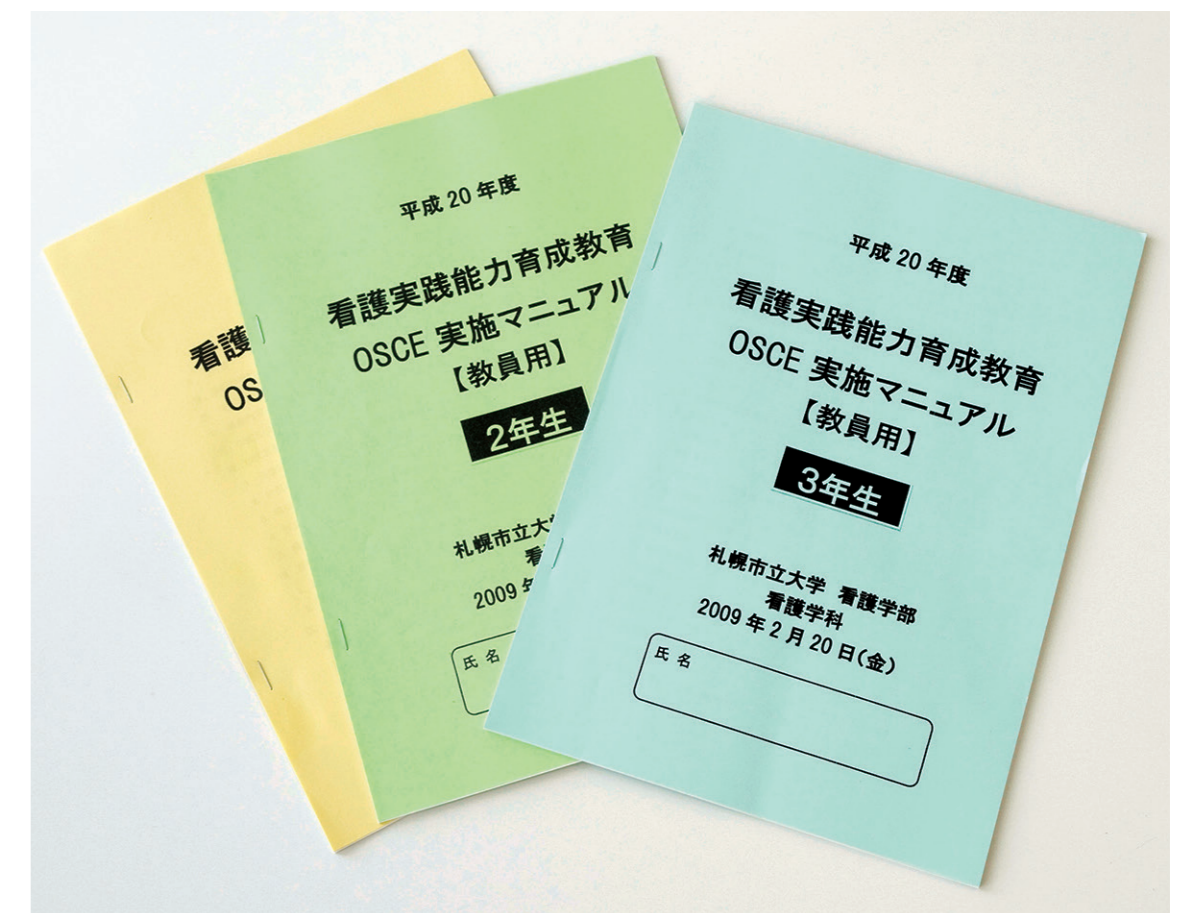
している事例はほとんどなく、教育的な体系として検討していた大学もありませんでした。看護OSCEをゼロから立ち上げて現在の形まで育ててきたことは、本学の非常に大きな特徴です。



母性看護分野の試験



質の高い大学教育推進プログラムに採択 (2008-2010)

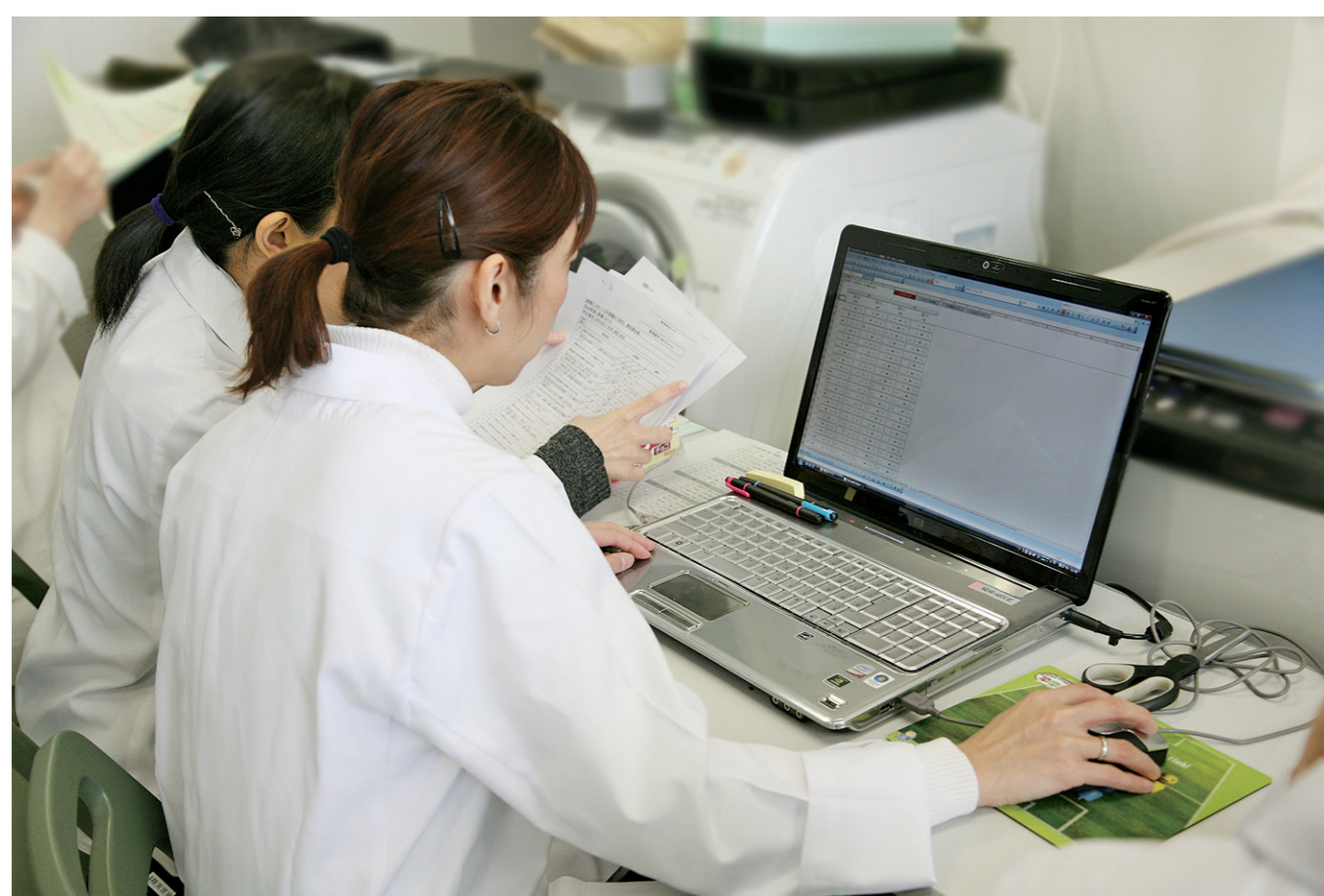


OSCE実施マニュアル

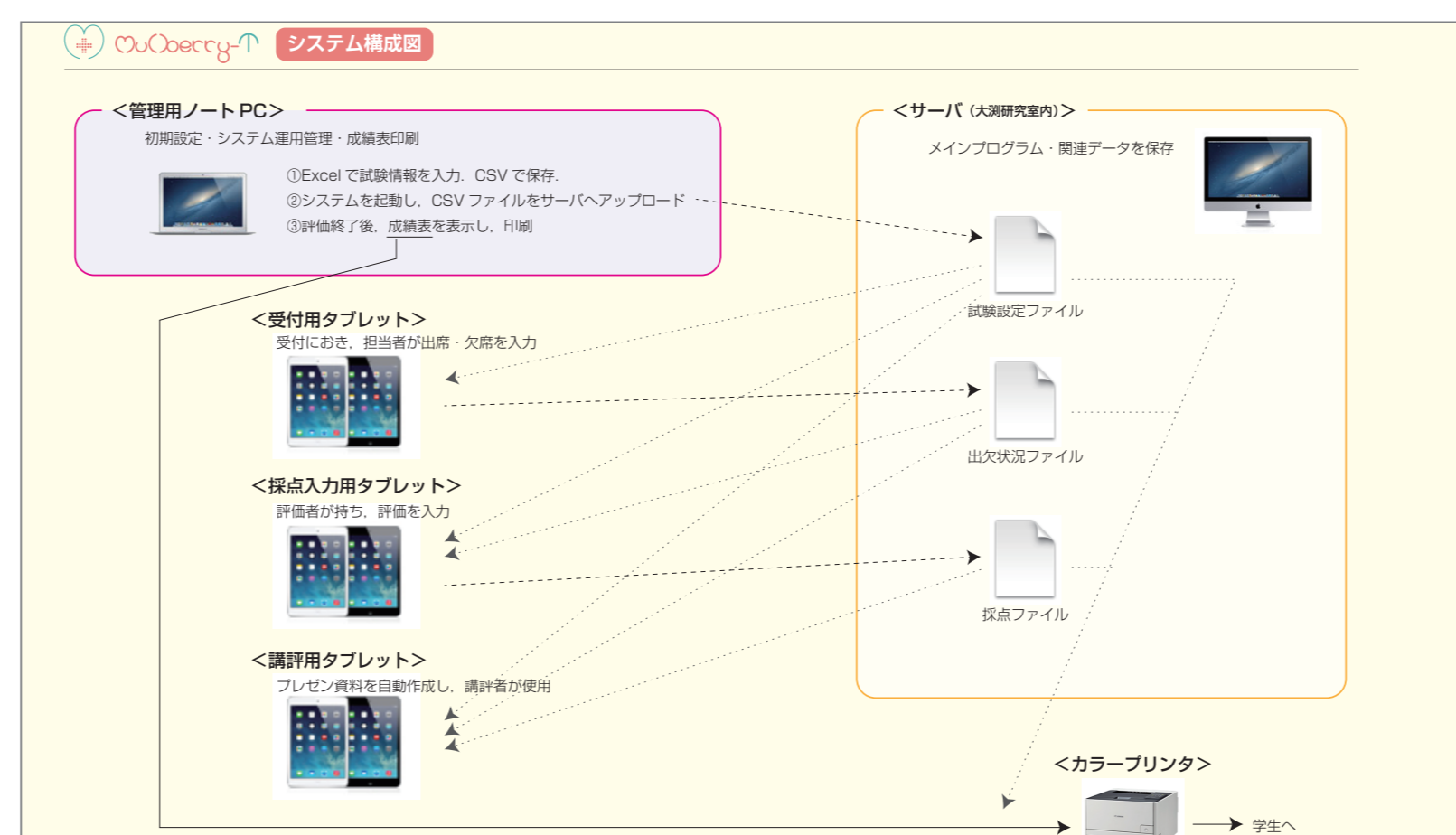
●OSCE運営支援システム「Mulberry」

看護学部で実施しているOSCEの実施時に人的資源、物的資源の負担を軽減すること、また教育効果を向上することを目的として、OSCE運営支援システム「Mulberry」を開発しました。両学部教員の連携により開発されたこのシステムは、2007年度に初めて利用

されました。評価結果を入力すると、短時間で集計を自動的に行い、学生個々の評価を試験当日に返却することができます。また、2013年度にはタブレットを用いた採点入力システムを開発。結果入力作業も自動化することで、業務担当教員の負荷を大幅に軽減しました。



OSCE評価入力の様子



Mulberryのシステム構成図

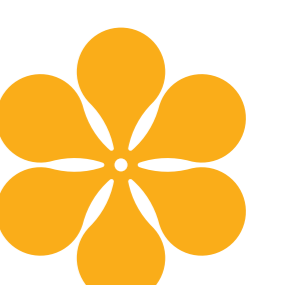


タブレットシステムでの採点

●新運営支援システム「FIREDIPPER for OSCE」の導入

内製開発で長年使用していたMulberryシステムの老朽化によって、さまざまな不具合が起きるようになりました。そこで、外部のシステムを導入する方針を固め、ソフトウェアやメンテナンスを外部に委託して、いつも最善のコンディションでOSCEシステムを使い続ける

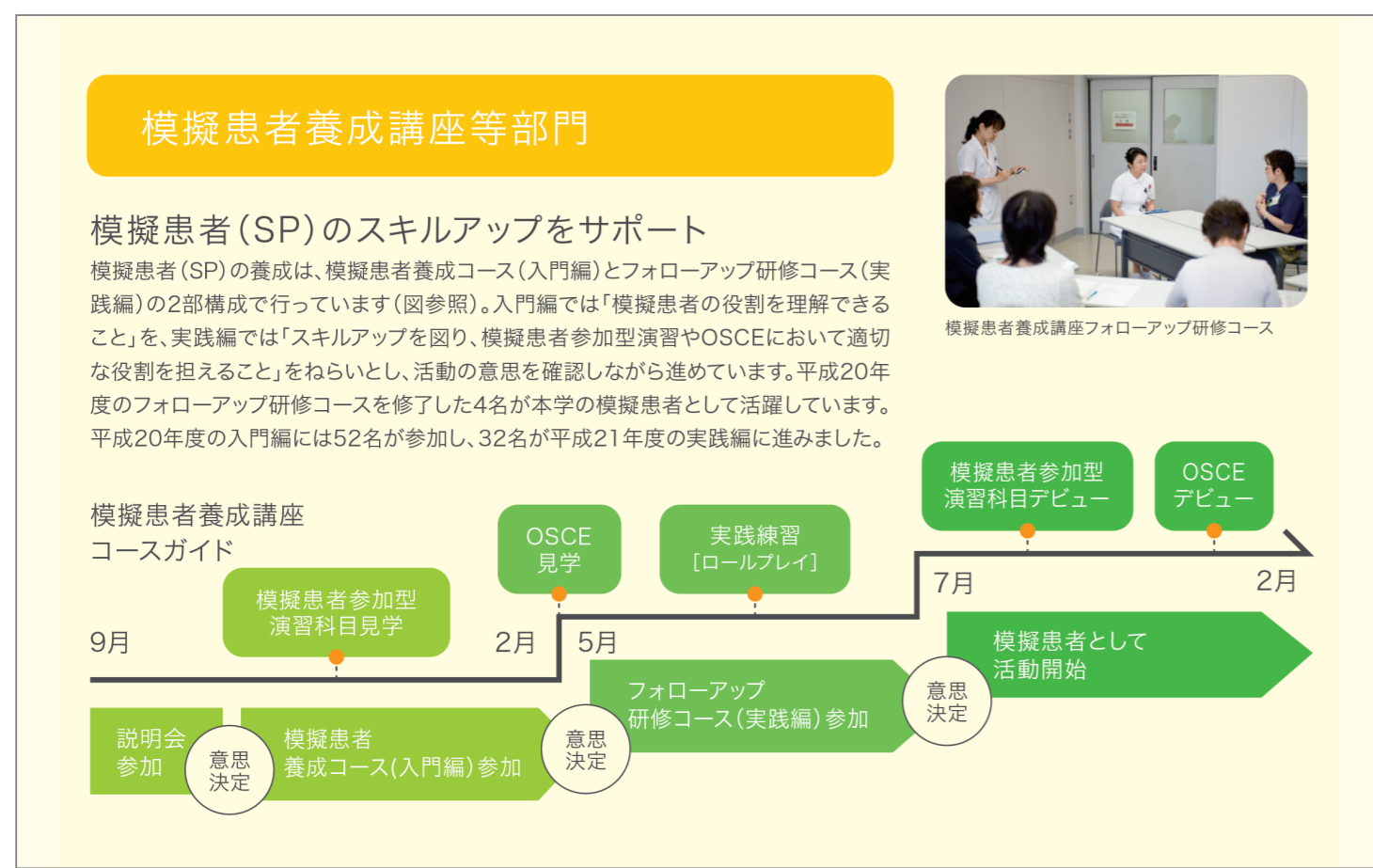
ことになりました。2024年度から導入されたのが、日本テクノ・ラボ社の「FIREDIPPER for OSCE」でした。Mulberryシステムと同等以上の機能をもつようにシステムをカスタマイズすることで、快適なOSCE環境を得ることができました。



●市民と共につくる看護学教育

模擬患者とは、医学や看護の学生の教育現場で患者の役割を演じる人のことで、OSCEを実施する上で欠かすことができない皆様です。看護学部では、自前で模擬患者を養成することとし、模擬患者養成講座を2007年度

に始めました。多くの市民の方々にご協力いただき、これまでに7期開催されて、現在47名の模擬患者さんが登録していただいております。このように模擬患者さんには本学のOSCEを支えていただいております。



模擬患者養成のプロセス



模擬患者についての説明会



模擬患者を相手に試験を実施する学生

●桑の会

桑の会は、本学のOSCEに協力していただいている模擬患者さんの集まりです。模擬患者さんどうしの交流・連絡・学習を目的に結成され、年に数回、定例学習会を開催しています。



模擬患者のトレーニング風景



評価者(教員)・模擬患者からの講評

●専門書籍「看護OSCE」の発刊

札幌市立大学のOSCEは、全看護学領域で1年から4年の各学年でOSCEを取り入れ、4年間で学ぶ技術内容の到達度や評価基準を明確にし、認知・精神運動・情意領域を含む教育方法と客観的な評価法をシステム化しているのが特徴です。本書は、先駆的に行っている看護教育現場でのOSCEの進め方、実施方法とその展開を具体的に紹介しています(2011年発刊)。



「看護OSCE」中村 恵子(元 本学副学長・看護学部長) 編著 メヂカルフレンド社

●成果の発信

これまでの20年間でOSCEの成果について、多くの発信をしています。本学の年報にて公開していますので、ぜひご覧ください。



「札幌市立大学年報」公開サイト



成果発表の一例(2015年度 学内研究交流会ポスターより抜粋)

